令和２年３月

令和元年度　府中市立府中第七中学校　学校経営報告

府中市立府中第七中学校
校　長　　金子　善厚

１　今年度の重点取組目標と自己評価

【学習指導】

①　授業で毎時間、「本時のねらい」を示し、生徒に授業の見通しをもたせる授業、基礎学力の定着、わかりやすい授業改善を行い、基礎・基本の確実な定着を図る。（生徒保護者アンケートの肯定的評価が全体の８５％以上）

〔自己評価〕

「本時のねらい」、「本時の流れ」を明確化し生徒に授業の見通しをもたせている。前年度より肯定的評価がアップしている。しかし、目標数値には至らなかった。

アンケート項目	生　徒	保護者
学校は「わかりやすい授業」を進めている（R元年度）	８３．１％	７８．７％
学校は「わかりやすい授業」を進めている（H30 年度）	８４．４％	６８．８％

アンケート項目	生　徒	保護者
学校は、学習内容の基礎・基本の定着に努めている（R元年度）	８３．１％	７８．７％
学校は、学習内容の基礎・基本の定着に努めている（H30 年度）	６４．６％	６４．８％

②　基礎的な知識・技能をもとに、計画的に生徒が主体的に学習しようとする学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力の育成を図る。（生徒保護者アンケートの肯定的評価が全体の６０％以上）

〔自己評価〕

前年度より肯定的な評価が上がり、取組目標の達成に繋がってきている。継続して指導をしていく。

アンケート項目	生　徒	保護者
(私は、お子さんは)主体的に学習に取り組んでいる(R元年度)	７９.３％	５１.１％
(私は、お子さんは)主体的に学習に取り組んでいる(H30 年度)	４８.５％	４０.１％

③　数学科・英語科で計画的に習熟度別少人数授業を行い、生徒の学習状況に対応した、きめ細やかな学習指導を行う。

〔自己評価〕

各コースで生徒の学習状況により指導が図られるように教科部会で検討を行っている。

④　過去の「全国学力・学習状況調査」、「児童・生徒の学力の向上を図るための調査」の問題を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。

〔自己評価〕

教科によって活用していたが、５教科での活用率は低かった。

⑤　４月に「学習のてびき」を生徒に配布し、家庭学習の定着を図る。（生徒保護者アンケートの肯定的評価が６０％以上）

〔自己評価〕

目標数値には至らなかったが、前年度より生徒、保護者ともに家庭学習習慣が身についているとの回答が増加してきた。取組の成果が出てきていると考える。

アンケート項目	生　徒	保護者
家庭学習習慣が身についている(R元年度)	４５.０％	４８.９％
家庭学習習慣が身についている(H30 年度)	３５.４％	４４.１％

⑥　評価規準と評価計画を４月までに作成し、生徒、保護者に配布する。(保護者アンケートの肯定的評価が全体の９０％以上)

〔自己評価〕

適切に評価をしているという肯定的評価が多い。さらに評価を高めるように指導と評価の一体化を図っていく。

アンケート項目	保護者
学校は評価・評定を適切に行っている。	８３.５％

⑦　朝読書で、学年の発達段階に応じた選書が自らでき、読書に親しむ態度を育成する。

〔自己評価〕

朝読書の定着は図れてきている。

⑧　総合的な学習の時間で「持続可能な社会づくり」を柱とし、「生き方学習」、「日本伝統文化」、「オリンピック・パラリンピック」、「安全教育」をテーマに自ら考え、情報収集、情報分析、課題解決できる指導を行う。

〔自己評価〕

計画的に実施を行ってきた。

⑨　各教科、特別活動、総合的な学習の時間、道徳等でオリンピック・パラリンピック教育を計画的に実施する。

〔自己評価〕

計画的に実施を行ってきた。

【特別の教科　道徳】

①　道徳科の全体計画、年間指導計画に基づき、担任だけでなく、２学期から副担任による道徳科のローテーション授業を２回以上実施する。

〔自己評価〕

２学期からローテーション授業を行い、副担任も道徳科の授業を３回以上実施した。

②　「考える道徳」、「議論する道徳」を取り入れた授業改善を図る。

〔自己評価〕

授業でグループワークを行い、自分の意見を述べる。、他者の意見を聞き、他者理解に繋げ、内容項目について深めることができている。

③　道徳科の授業を要として、自他の生命を尊重し、思いやりの心をもって他者と接する態度を育み。「いじめ防止」に関する授業を実施する。

〔自己評価〕

内容項目の「生命尊重」、「思いやり」を中心に授業を行ってきた。また、意図的に他者に対する思いやりの心を育む授業を実施した。

④　道徳教育推進教師を中心として、５月までに道徳授業地区公開講座の計画をたて、公開授業の協議会の改善・工夫をし、学校、家庭、地域社会が一体となった道徳教育を推進する。

〔自己評価〕

道徳授業地区公開講座で、授業後の協議会に保護者地域の方が２６名参加され、意見交換を行った。

【生活指導】

①　生徒の自己肯定感、自尊感情を高める諸活動を意図的・計画的にたてる。（生徒アンケートで肯定的評価が６０％以上）

〔自己評価〕

学期ごとに自己肯定感の生徒調査を取り、学年ごとに対策・実践を行い、成果検討のサイクルで１年間行ってきた。その結果、「自己主張・自己決定」及び「関係の中での自己」については少しずつであるが成果が伸びてきた。しかし、「自己評価・自己受容」については３学年とも伸び悩んでいることが課題として残った。

②　教職員が率先して、生徒に「おはよう」、「こんにちは」、「さようなら」の声かけをし、生徒が当り前の前のように、あいさつができる生徒を育成する。（保護者アンケートで「あいさつができる」で８０％以上）

〔自己評価〕

「あいさつ」をする生徒の割合が増えてきた。継続して育成をしていく。

アンケート項目	保護者
お子さんは、しっかりとあいさつができている。	８７.２％

③　「いじめ防止等対策基本方針」、「いじめ防止等対策方針細目」に基づき「いじめは許さない」という基本認識を徹底し、学校・家庭・地域と教育委員会と一体となって、いじめの未然防止、早期発見、早期対応をする。（生徒アンケートで「いじめ発生」１％以下）

〔自己評価〕

生徒アンケートでは、東京都教育庁のいじめ定義にあてはまる回答はなかった。さらに未然防止に努める。

④　学校不適応や不登校等の生徒については、週一回の委員会を定期的に開き、特別支援コーディネータを中心にスクールカウンセラーと対応策を立てる。また、学年・学校体制で組織的に保護者と連携対応を行う。

〔自己評価〕

委員会で情報交換を行い、具体的的な方策を立て、該当学年に降ろした。また、学年体制・学校体制で組織的に家庭訪問や電話連絡を行い、家庭との連携を図った。

⑤　自殺防止として、長期休業前後の相談体制を確立し、家庭・地域と連携した見守り体制を構築する。また、生徒に様々な困難やストレスへの対処方法を身に付ける、ＳＯＳの出し方、心の保持に係る教育を推進する。

〔自己評価〕

「ＳＯＳの出し方」について学年ごとに講習を年度当初に実施した。「心の保持」については、特別活動と道徳科を中心として推進をしてきた。生徒が担任だけでなく、学年教員に相談できる体制づくりを行ってきた。

⑥　「ＳＮＳ東京ノート」の活用、関係諸機関と連携したセーフティ教室の実施を通して、ＳＮＳの正しい知識やモラルについて指導の徹底を行い、未然防止を図る。
〔自己評価〕
セーフティ教室でＳＮＳトラブル防止を行ってきたが、多少のＳＮＳトラブルが発生し、対応及び指導を行った。

【進路指導】
①　３年間を見通したキャリア教育の系統的な指導を行い、１年生で「職場調べ」、２年生で「職場体験学習」を実施し、自己理解を深めて、将来への生き方を考えさせる。
〔自己評価〕
「職業調べ」や「職場体験学習」から、それぞれの生徒の事後学習から職業観や勤労観が培われてきている。

②　ハローワークや地域の人材、高校の教員など、外部の教育力を年２回以上活用する計画をたて、実施する。
〔自己評価〕
地域人材活用を４回実施し、「自分の進路」や「生き方」について生徒に考えさせることができた。

【特別活動】
①　生徒一人一人が意欲的に実践する生徒会活動の充実を目指し、生徒会が企画をたてたボランティア活動やあいさつ運動等に主体的に参加しようとする意欲を育てる。(生徒アンケートで「ボランティア活動の参加」が全体の６０％以上)
⑤　４月に生徒に地域活動やボランティア活動への参加説明と年間予定表を配布し、ボランティア活動の意義を理解させ、自主的に参加する生徒を育成する。
〔自己評価〕
「ボランティア活動の参加者数」は目標を達成することはできなかったが、のべ人数としては２５０人となり、全校生徒数を上回った。意欲的にボランティア活動に参加している生徒の姿が見られるようになってきた。

アンケート項目	生　徒	保護者
(私は、お子さんは)ボランティア活動に積極的に参加している	５２.０％	４５.４％

②　学校行事等を通して、生徒主体の体験的な活動を充実させ、生徒に自主的・実践的な態度、互いに協力する態度を育て、自己を生かす能力や集団への所属感・連帯感を育む。
〔自己評価〕
生徒の実態に応じて、学校行事等のねらいと内容の見直しをし、計画・実施をした。昨年度より生徒は、自主的に学校行事に取り組み協力する態度や集団の所属感を感じたようである。

アンケート項目	生　徒	保護者
学校は生徒の成長を促す行事等を企画・実施している。	８１.７％	８７.２％
(私は、お子さんは)学校行事に積極的に取り組んでいる。	９３.１％	９２.１％

③　部活動指導で、生徒の資質・能力の伸長を支援するとともに、顧問の教員、指導者が体罰や不適切な指導がなく、顧問と生徒、生徒同士の信頼関係を深める。また、部活動

保護者会を５月に開催し、保護者に部活動の意義を説明し、顧問と協力し合う部活動にする。

〔自己評価〕

部活動指導を通して、顧問（教員）と生徒、生徒どうしの信頼関係を図れてきている。また、保護者の協力のもと活動することができた。

④　部活動外部指導員には、年度当初に体罰防止研修を行う。

〔自己評価〕

部活動外部指導員には、採用時に体罰防止研修を行い、体罰防止を図った。

【特別支援教育】

①　特別支援教育委員会を週１回開き、特別支援コーディネータを中心にスクールカウンセラーと連携を図り、特別な支援を要する生徒のサポート対応を検討し、方策を全教員に共通の会を諮り、対応する。また、学校体制で保護者と連携対応を行う。

〔自己評価〕

特別支援コーディネータが各学年に情報収集、情報整理をさせ、それを元にサポート策を立て、教職員に徹底を図った。特別支援を要する生徒への共通理解のもと生徒対応している。また、特別な支援を要する生徒の保護者と担任や特別支援コーディネータが面接をし、支援方法の確認をして保護者との信頼関係が築かれている。

②　教育環境のユニバーサルデザイン化を推進し、生徒が授業に取り組みやすく、学びやすいように授業環境及び授業改善を図る。

〔自己評価〕

授業開始前までに「本時のねらい」、「本時の流れ」を明記し、ユニバーサル・デザイン化が浸透してきている。また、定期考査の文字の大きさ、フォント、問題文についても改善をして、徹底化している。

【研究・研修の充実】

①　校内研修会で「特別の教科　道徳」の授業改善及び評価についての研修会を行う。

〔自己評価〕

「考える道徳」、「議論する道徳」への授業改善及び授業や生徒が書いたワークシートからの読取ができる教員が増えてきた。

②　校内研修会で特別支援教室設置に向けて、講師を招き、教室環境整備及び生徒に「特別支援について」の指導研修を行う。

〔自己評価〕

教室環境整備の備品関係の納入が遅れている。ハード面では十分でない。ソフト面の教員の特別支援教室の知識や理解は進んでいる。

③　職層に応じた研修や専門研修・教育課題研修等へ積極的に年１回以上参加し、自らの専門性を高める。

〔自己評価〕

東京都教職研修センターの研修会に教員全員が参加をし、研修で培ったことを教科、校務分掌（特別支援教育、読書指導）に活かしている。

【保護者・地域・小学校との連携】

①　コミュニティ・スクール協議会の充実を図り、地域の教育力を活用し、教育活動を充実させる。また、学校の自己点検及び自己評価を年２回行い、保護者・地域への説明責任・結果責任を果たす。

〔自己評価〕

・コミュニティ・スクール協議会を学期１回開催し、学校での教育活動報告、自己点検（保護者アンケート、生徒アンケート等）の報告を行った。

・講演会の講師と地域伝統芸能の派遣、夏季学習教室への高校生派遣等を行っていただき教育活動の充実が図ることができた。

②　青少年対策第七地区委員会と連携して、教職員と生徒がスポーツや文化活動・地域行事等に年１回以上積極的に参加をする。

〔自己評価〕

教職員はスポーツや文化活動・地域行事等に年１回以上参加予定であったが、コロナウイルスとで行事が中止になり、参加予定教員が参加することができなかった。生徒はのべ６０名が参加をした。

③　本校英語科教員が、武蔵台小学校、府中第七小学校の外国語の授業に参加し、小中の教科連携を図る。

〔自己評価〕

年間を通して、本校教員が両校の外国語の授業に参加し、児童の指導及び小学校の英語科教育の向上を図った。

④　七中学区の教員が相互授業や行事と関わり、教員間・児童生徒の交流や連携を図る。

〔自己評価〕

・生徒が小学校の夏季学習教室にリトルティーチャーとして児童の答え合わせや問題の解き方の指導をした。

・本校体育科教員、陸上部生徒が府中第七小学校、武蔵台小学校の陸上記録会練習で指導を行い、児童が良い成績を残した。

・七中の合唱コンクールに府中第七小学校、武蔵台小学校の音楽教員が審査員として参加し、小学校の卒業生の姿を見ていただける機会になった。

【学校運営】

①　「学校経営支援予算」をはじめ、学校予算について、適切かつ有効な予算執行を図る。

〔自己評価〕

学校経営支援事業として、理科指導支援員、図書館支援員に予算をかけてきた。

（理科指導支援員）

実験の準備・片付けを行い、理科教員の負担軽減に繋がっている。また、授業の補助支援により生徒の実験・観察活動の管理に目が行き届き、効果的な授業と安全な授業が実現している。

（図書館支援員）

「朝の読書」を設け、図書支援員と図書委員会の生徒が相談をしながら、学級文庫の入れ替えを行い、生徒の読書活動を充実させている。また、生徒が通いやすい図書館づくりを行い、生徒の図書館利用が増えてきた。

②　教職員の服務事故が起きない職場の環境づくりを行うとともに、月１回の服務事故防止研修を実施する。

〔自己評価〕
　月１回の服務事故防止研修の実施と服務事故防止チェックシートを活用して、教員に振り返りをさせ、指導を行ってきた。

２　次年度以降の課題と対応策

【学習指導】

新学習指導要領完全実施に向けて
・移行期での履修内容の確実な実施を年間指導計画に落とし込む。
・各教科の観点別評価と指導の一体化が適切に行えるように校内研修を実施する。

【道徳】

「考える道徳」、「議論する道徳」へ向けての授業改善及び適切な評価の実施
・指導改善及び評価についての研鑽を積む。

【生活指導】

・学校不適応、不登校生徒が起きない、学校、学年、学級づくりを丁寧に行う。
・自殺、いじめなどの社会問題をＤＶＤ活用、外部講師等の活用により、多面的に生徒に指導をする。

【特別支援教育】

特別な支援教育の充実と特別支援教室の運営
・特別な支援を要する生徒及び保護者との連携の充実を図る。
・特別支援教室に関わる巡回指導員、専門員等との連携の構築

【教員の研修】

新学習要領（教科）の完全実施に向けての教員としての資質・能力向上を図る。
・全教員が教職員研修センターの研修の参加をする。
・校内研修会で新学習指導要領内容及び観点別評価と指導の一体化の研修を計画的に行う。

【保護者・地域・小学校との連携】

・地域コーディネータとさらなる連携を行い、地域の教育力を活用し、教育活動を充実させる。
・小学校と兼務発令を活用し、教科、行事等の連携を充実させる。

【学校運営】

・学校経営支援事業を生徒の実態等から有効活用をする。
・副校長等校務改善支援事業を教員の範囲まで広げ、ワークライフ・バランスの視点から教員の負担解消を行う。
・府中市の「働き方改革」を元に教職員の勤務改善を推進する。
・府中市の「運動部活動、文化部活動のあり方」を元に保護者説明を行い、部活動を行う。